

Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons (Asian AOMS) への入会のお願い

1. Asian AOMS 設立の経緯と存在意義

Asian AOMS（アジア口腔顎顔面外科学会）は、IAOMS（国際口腔顎顔面外科学会）の Regional Association の一つとして、1989 年に設立されました。それ以来、IAOMS の理事会にアジアの代表理事が名を連ねることとなり、アジアにおけるシングルライセンスベースの口腔外科が守られ、現在に至っております。また、学会設立を主導した JSOMS の国際的プレゼンスが飛躍的に向上しました。

また、Asian AOMS の機関誌である Journal of Oral & Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology (JOMSMP) (IF 2025=0.5) は、JSOMS の英文機関誌でもあり、口腔外科専門医・指導医の出願要件においても日口外誌に次ぐ特段の扱いとなっております。さらに、学位申請論文の優先査読制度 (Priority Lane) も、JSOMS 会員の学位取得に少なからず貢献しております。

2. これまでの Asian AOMS の運営と財務状況

財政的に極めて脆弱であった設立当初から 2025 年度に至るまで、Asian AOMS は実質的な事務局（非常勤 1 名のみ）は持たず、実務の大半（総務、財務、JOMSMP の EIC 業務）は、日本選出の歴代理事が無償で請け負ってきました。その結果、Asian AOMS の財務状況は経時的に安定し相応の内部留保を確保するに至りました。しかし、昨年、海外への送金手続きの手違いを契機に、取引銀行から一切の海外取引を凍結され、解除の条件として、OFAC 規制など国際的な金融ルールに則った運営ができる事務局体制の整備を強く求められました。これについては、本年度より（一財）国際学術情報センター（IMIC）に事務局業務を委託することで解決し、さらに、これまでの事務的な懸案事項についても順次改善しているところです。なお、IMIC への年間委託料は約 1,200 万円ですが、海外との遣り取りも含めた的確な事務的対応力を鑑みますと、妥当な必要経費と考えております。

一方、時勢に伴う必要経費の増加、ならびに会員数・会費納入率の低迷（とくに日本の加入率が低い）により、昨年度は、約 1,000 万円の赤字決算となっております。これに、前述の事務局委託料 1,200 万円を加え、今年度は 2,000 万円を超える赤字が見込まれております。これは、今後 4～5 年の間に Asian AOMS は財政破綻に陥り、必然的に JOMSMP も失うことを意味しており、これを回避するためには、多くの JSOMS 会員の皆様にご入会いただくことが必須要件となっております。

3. Asian AOMS への入会のお願い

JSOMS 会員にとっての Asian AOMS と JOMSMP の存在意義をご理解いただき、是非とも Asian AOMS にご入会いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。入会手続きにつきましては、学会 HP (<https://www.asianaoms.org/>) の Membership Application からお願い致します。